



だっこするよ

令和2年1月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115 - 0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

育ての心から 新年の誓い

新年明けましておめでとうございます。ご家族皆様、お元気で新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。新しい年の始まりは、身も心も引き締まった気持ちになりますね。

新年も保育理念である「一人ひとりのこどもを大切に こどものための保育園へ」を目指して参ります。

12月の生活発表会には、沢山の保護者の皆さまにご参加いただき有難うございました。スムーズな進行にご協力いただきまして大きな混乱もなく会を終えることができました。心よりお礼を申し上げます。スローガン通り「みんながかっこいい、うれしい、しあわせな生活発表会」となりました。歳児によって表現の内容は違いますが、一人ひとりが伸び伸びと個性を表現して楽しむ姿が見られて嬉しく思いました。そして、当日までのホールはつながりの場となり、小さな仲間達は互いに讃えあって、表現遊びの楽しさを共有していました。温かな笑顔に溢れていました。

新年にあたり、倉橋惣三氏「育ての心」その序文をご紹介します。倉橋氏は、日本の幼児教育の父とも言われ1936年に出版された本です。

「自ら育つものを育てせようとする心、それが育ての心である。世にこんな楽しい心があろうか。それは明るい世界である。温かい世界である。育つものと育てるものとが、互いの結びつきに於いて相楽んでいる心である。育ての心。そこには何の強要もない。無理もない。育つものの偉(おお)きな力を信頼し、敬重して、その発達に遵(したが)うて発達を遂げしめようとする。役目でもなく、義務でもなく、誰の心にも動く真情である。しかも、この真情が最も深く動くのは親である。次いで幼き子等の教育者である。そこには抱く我が子の成育がある。日々に相触る子等の生活がある。こうも自ら育とうとするものを前にして、育てずしてはいられなくなる心、それが親と教育者の最も貴い育ての心である。それにしても、育ての心は相手を育てるばかりではない。それによって自分も育てられてゆくのである…」

こどもは、どの子も本来、自分で育つ力をもって生まれている。その子の発達に応じて成長する存在であると。大人からの強要となる指示や命令では自分で育つ心は育たない。こどもの人権を守り、やりたいことを十分に満たしてあげること、見守ることが育ての心であると。そして、共に楽しんで、その子らしさを見極めることが保育者も自ら育てられているのだ。読む度に、保育者としての人間性が問われているように感じます。21世紀への教育は、「みんなが同じ」から、「個性」を強みにして、得意分野のヒーローとなる力を育むことだそうです。地域社会や地元の皆さんと繋がり、体験を深めていき、社会の一員としての意識を育んで参ります。

今年度も残すところ3カ月となりました。進級や卒園を迎えます。発表会を終えてまた一段とまとまってきたクラス、何をしても笑いが起きます。未来しかないこども達一人ひとりに「貴方は貴方でOKだよ」と自己肯定感を大切に育てて旅たちの日を迎えたいと思います。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

写真は、みんなのつながりの場です。

